



光速スローネス再訪

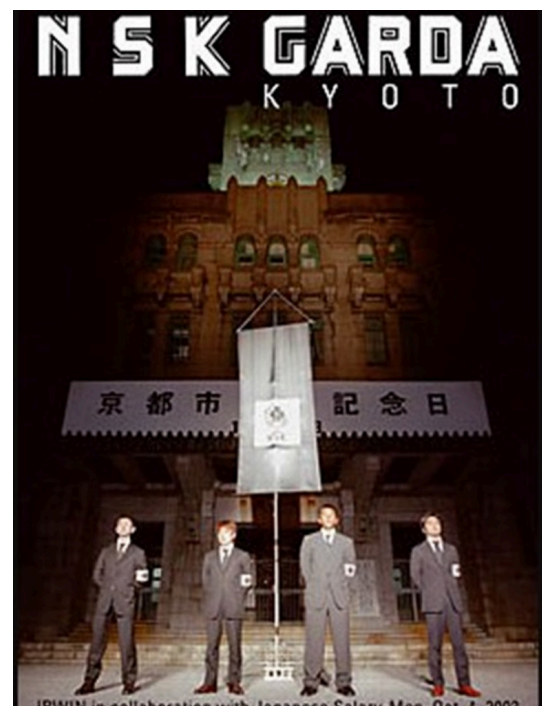
Weekend Art: Hallelujah the Hill. [KyotoArtCenter 2003]. Photo: Aleksandar Battista Ilic.

——「京都ビエンナーレ2003」から21年——

今から21年前となる2003年10月、京都芸術センターを中心として「京都ビエンナーレ2003」が開催されました。21世紀が始まったばかりの当時、掲げたテーマは「スローネス」。

2001年にはいわゆる「同時多発テロ」がありました。その2年後の2003年3月、アメリカのブッシュ大統領は、大量破壊兵器保有を理由にイラクに軍事介入します（だがそんな兵器などなかった！）。こうした不穏な国際情勢を背景に、この後日本では小泉純一郎政権下で郵政民営化や年金・医療制度「改革」をはじめとする、グローバリズム・新自由主義政策が進められます。

2003年とはある意味で、今の社会と文化を支配する「空気」——コスト削減、ルール遵守、費用対効果、自己責任、リスク回避、等々——が広がってゆくターニングポイントです。このトークイベントでは「京都ビエンナーレ2003」を振り返りつつ、過去21年とは何だったのか、今という時をどのように共有できるのか、みんなで考えてみたいと思います。



【日時】 10月19日（土） 14:00-17:00

【場所】 京都市立芸術大学 講義室10（C棟4階）（入場無料・予約不要）

お問い合わせ：kasuya[at]kcua.ac.jp（[at]を@に変更してください）

14:00-14:10 加須屋明子 開会挨拶・趣旨

14:10-14:40 吉岡洋「光速スローネス再訪——〈2003年〉というエポック」

14:40-15:30 松尾恵×吉岡洋「21世紀の21年を振り返る」

15:30-15:45 休憩

15:45-16:45 「〈京都ビエンナーレ〉レジェンド」（KB2003スタッフ）

16:45-17:00 全体ディスカッション・質疑応答など

QRコード